身体が不自由な方々への衣服開発

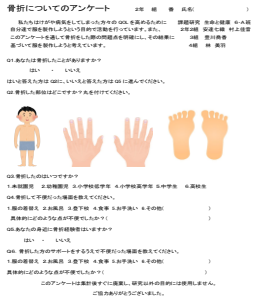
明治学園高等学校　安達七織　中村莉咲　平田彩乃　古橋愛

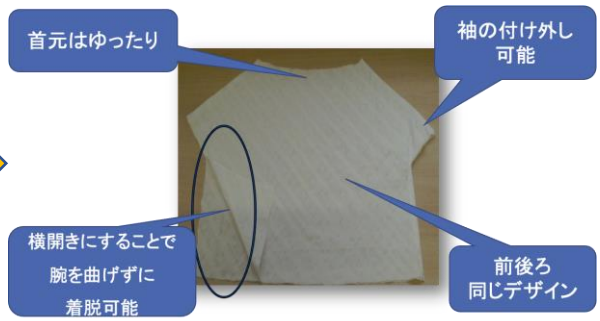
【仮説】

私たちは衣服を選ぶ際に、好きなデザインや素材をいろいろなお店で選ぶことができます。しかし、身体が不自由な方々(特に負傷者、身体障がい者)は、同じように衣服を選ぶことは難しいのではないか、と考え、機能性だけでなく、デザイン性の高い衣服を制作することで、身体に不自由を抱える方々の**QOL (=Quality Of Life 生活の質)** 向上につながるのではないか、と考えました。

〈けがをしてしまった方々への衣服〉

若者(18.歳以下)の骨折経験率が２１．４％(「厚生の指標」2014 年 6 月より)と高い⇒利き腕の骨折に注目し、骨折した方でも着脱しやすく、動きやすい衣服を考察してみました。　**高二 161 名を対象にアンケートを実施**　　**アンケートを元に試作を製作**


骨折についてのアンケート



POINT

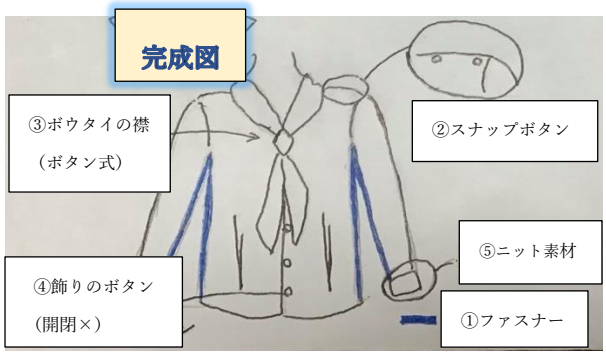
- 首元をゆったりとした形にし、首が通りやすくする　⇒　腕への負担を軽減するため
- 横開きにする　⇒　骨折している腕を曲げずに着脱可能に
- 前と後ろのデザインを同じにする　⇒　左右どちらの腕を骨折しても着用可能に
- 袖部分のつけ外しができるようにする　⇒　ギブスをしている方でも長袖を着用できるように

＜障害を持つ方々のための衣服＞

2 作目は **“どんな人にでも着やすい服”** をテーマに手足が麻痺している障がい者の方に向けて服の研究を進めてきました。インターネットで先行研究を調べたり、実際に障がい者施設に赴きインタビューを行ったりしました。

とりはた玄海園生活支援センターでのインタビューの様子

このようなインタビュー結果をもとに**フォーマルな場面でのブラウス**を制作しています。図 1 のグラフより、障がい者の方が服を選ぶポイントとして、着やすさの回答よりデザインの回答の方がわずかに上回っていることから、障がい者の方が服に求めるニーズとして、着やすさだけでなくデザイン性も重視していることがわかります。既に多く作られている障がい者向けの服は着脱しやすい普段着なので活動の幅が制限されます。そこで、**デザイン性の高いフォーマルな服**を作ることにより冠婚葬祭や、外食などでも着用でき、生活に彩りが生まれ、**QOL の向上**に役立つと考えました。



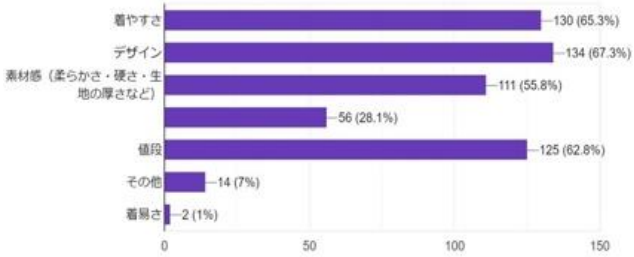


図 1　障がい者が服を選ぶ際のポイント
（CO－COLife 調査部　障がい者のファッションに関する調査）

工夫点	説明
①ファスナー	肘がひっかからずにスムーズに着脱できるようにする。
②スナップボタン	前開きではなく、肩部分を開閉する形式をとることにより、細かいボタンの開閉作業をなくし、頭からかぶることを可能にする。
③ボウタイの襟	②のように肩が前身頃と後ろ身頃で分断されるようになるので、普通の襟をつけることが難しくなった。そのため、スカーフのようなボウタイの形を取り入れる。
④飾りのボタン	②のように、前は開閉しないことにしたので、飾りとしてあわびで出来た光沢のあるボタンをつける。
⑤ニット素材	腕をまくる際に、普通のボタンでは開閉が困難なため、インタビューで服を選ぶポイントとしてでてきた伸縮性のあるニット素材を取り入れる。

【展望】　現段階の試作品を完成させ、更なる改善を行い、最終的には施設の方のご協力のもと身体が不自由な方々に実際に着用していただき、ご意見をいただこうと考えています。